

総合計画審議会の各部会（書面開催）における政策課題集等に対する主な意見

政策体系			施策のタイトル	意見
章	政策	施策		
—	—	—	<特定の施策に紐づかない意見>	<p>◆全体像として、学びの場の提供をはじめとするイベントなどに関して、市が主導して動くのではなく、市民の要望が膨らんだものを実現化するようにすると、お互いに実りあるものになるような気がします。</p>
—	—	—	<特定の施策に紐づかない意見>	<p>◆1月25日付の上記の資料拝見いたしました。「後期計画に向けた現状における課題」を中心に確認いたしました。その結果、私が述べた意見や述べたかった意見はすべて掲載してありました。 ◆また、会議の際は、スタッフの方々がグループ毎の話し合いをまとめて頂いてホワイトボードを用いて説明頂いたのも素晴らしかったですと思います。</p>
—	—	—	<特定の施策に紐づかない意見>	<p>◆全体にかかる部分として、DXの部分、P111に単独の施策からは削除としてありますが、それぞれの項目についてそれが触れているのかどうかは確認した方がいいかと考えます。</p>
—	—	—	<特定の施策に紐づかない意見>	<p>◆資料を何回も読みましたが、丁寧に細やかな配慮を感じる文面でした。ただ、カタカナが凄く多いと感じます。※（注釈）で説明していますが。 ◆市民意識調査の結果は顕著に表れていると思います。交通の便や就業機会、中心市街地や駅前の賑わいに不満が多いのは理解できます。重要と考える政策で「地域づくり」が2%しかないのは残念な数字です。もっと自分の住んでいる地域に関心をもってもらいたい。</p>
—	—	—	<特定の施策に紐づかない意見>	<p>◆今まで実施された良い取り組みについては、今後も引き続きお願いしたいと思えます。 ◆少子高齢化、交通の便、農林水産業、過疎化、ゴミ、エネルギー等々に関する件については、引き続き議論が必要と思えます。</p>
—	—	—	<特定の施策に紐づかない意見>	<p>◆前回の会議で出た内容が反映されており、とてもわかりやすいと感じました。</p>
—	—	—	<特定の施策に紐づかない意見>	<p>◆市民参加、広聴、広報、市民活動、図書館、文化財、地域民俗、文化芸術団体、教育。いずれの項目でも多くの市民が毎日目にするスマートフォンを通じて双方向で伝達することにより解決できる問題点が多くあると思う。機器を持たない市民のための従来の情報発信もしながら、先を担う市民に浸透する発信とたどり着きやすいページ作成、人材確保をお願いしたい。</p>
第1章	政策1	施策2	広聴の充実	<p>◆高校現場では市のイベント等の案内は頻繁だが、その取り組みの狙い等の理解が不足しており、単なるイベントへの動員になっている。「コミュニケーションを図る」の文言には「一緒に創りあげていく」という意味が含まれていることを理解したい。</p>
				<p>◆書き出し「市民参加市民協働を進めるためには「まちづくりに対する関心が高く、自分事として考える市民」を増やすことが必要です。」が重複している。重要性があることからの重複と思うが、それであれば、一番初めの施策1「市民参加・市民協働の推進」の①に記載する事が効果的かと思う。また、「関心が高い」「自分事として」という言い回しはわかりやすいが、誤解も招きやすいように感じる。「～に対し関心を持ち」や「主体的に」等の方が私は受け入れやすい。</p>
				<p>◆市から地域に出向いて困りごとを聴く手段（例えばかつての「地域づくり懇談会」的なもの）、声なき声を拾う手段（同様に「ふれあいの手紙」的なもの）を検討すべき。 （理由） ・地域から要望書のような形で上がってくるのを待つ（地域の自主性を尊重）こともいいが、それでは要望の場の人数が制限される。市が地域に出向いて聴くということにより多くの地域住民と接し、市政に関心を持ってもらう（市政に参加している）可能性が高まるし、その方が市の姿勢として謙虚である。 ・ふれあいの手紙のようなものでしか窮状を訴えられない市民が少しでもいれば、とりこぼしをしないで済む。健康福祉部の課題である「福祉総合窓口」にもつながる。（社協としても、地域で拾っていけるように努力している）</p>
				<p>◆ホームページについて、「わかりやすい」「たどりつきにくい」という感想が下がっている原因の追究方法をもう少し詳しくした方がよいかと思う。 ◆今、SNS→HPにたどりついて、ページを見た時に、せっかくLINEなどSNSの充実したシステムがあったとしても、最終的に活用するHPがわかりにくいのでは…。具体案がほしい。</p>

第1章	政策1	施策3	広報の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆市の施策への市民の認知度が低い。主となるセクションが不明確な事業が多い。 ◆市民が主体的にHPを開いて情報収集させるのはハードルが高い。HPがその手間暇に見合っているのか市当局には常に振り返る感性を持ってほしい。
				<ul style="list-style-type: none"> ◆市のホームページに掲載されている統計情報について、現在の生データだけでなく各課が保有している(?)経年推移がわかるデータも掲載すべき。 (理由) ・よほどの研究者なら現在のような生データも必要だろうが、ある事業に取り組もうとする場合に知りたい経年推移(変化)がまったく出て来ない。さりとして各課が保有しているそうしたデータを見られるわけでもない。改善してほしい。
第1章	政策1	施策4	地域共創人材の育成等の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆一般市民が大学で受講するのは多くの課題があり、難しい。地域で活躍する各種団体のリーダー等を養成すると同時に大学で学んだコーディネーターが地域に入る複線型の検討が必要だ。
				<ul style="list-style-type: none"> ◆「現状における課題」の②に、コーディネーター同士の研修によるスキルアップについても(その際の支援も)言及すべき。 (理由) ・コミ振職員など、地域からのコーディネーターと市や社協職員などのコーディネーターが一堂に会しての研修や地域計画(ビジョン)策定の場などへ参加する(特に地域のコーディネーター)ことにより、よりスキルアップが図られると思う。
第1章	政策1	施策5	市民活動等の支援等	<ul style="list-style-type: none"> ◆市民による自発的な公益活動について、場所を定めるだけでなく、日常的に広く市民に周知することも必要。どのような活動があるのかを知り、目にするのが参加、協働につながる一歩かと思う。 ◆補助金による支援は活動を実現するために不可欠だが、長続きさせるためには一つのグループにすべてを任せるのではなくいくつかのグループで協働することが必要。誰かができなくなれば消える活動ではなく、つなげてゆけるよう、補助金の条件にそのような事項を含んだり、担当職員が架け橋の役目をする仕掛けが欲しい。
第1章	政策2	施策1	東北公益文科大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆(成果④)「公益大の理事会・評議員会から「公立化を実現すべき」という意見が出され、庄内2市3町及び公益大と公立化勉強会を実施しています。」の部分ですが、地元経済界から公立化の提言をいただき、提言を受けて丸山市長の提案により勉強会を立ち上げていますので、「公益大の理事会・評議員会から「公立化を実現すべき」という意見が出され」の部分とは適切ではないと考えます。
				<ul style="list-style-type: none"> ◆酒田市の大学としてより発展させるためのヒントとして、近年、NPO法人の人気の高いことがある。今後も多くの法人設立が見込まれる。代表理事長、会計とも今以上に公益の高い知識が望まれることとなり、代表者と会計理事は国家試験の資格が必要となる時代が来ると予見される。日本初の公益大学として、学科を卒業すれば資格を取得できる若しくは試験の免除を目標とし、公益に関わる多くの団体の手本となれば、酒田市の発展につながる。
				<ul style="list-style-type: none"> ◆課題⑦「～就職したいと思うような魅力的な仕事を増やすための企業誘致～」に違和感を持つ。仕事が魅力的ではなくても、収入が減ることになっても引き継ぐ家業がなくても、Uターンする人も定住する人もいる。企業誘致は常にやらなければならない事ではあるが、それが急に実現するような大きな要素や計画は見当たらない。また、公益大生に限らず大学を卒業し一旦は酒田に戻ってもまた仙台などへ出て行ってしまう現実が多く見受けられる。その現状からみてもその通りだが、魅力的でなくても仕事に就き、働くのは当たり前のことなので、このような言い回しは誤解を招くかと思う。 ◆⑦「定住促進のための奨学金返済支援」が、どのような制度か注釈が欲しい。看護師専門学校のような卒業したら地元のために数年働くことが条件で、地域のコミ振などに入りアイデアを出しながら働く様なものか?

第1章	政策3	施策1	「いのち」の大切さを学ぶ教育の推進	<p>◆(課題②)「防災の視点を取り入れた教材開発の実施」の部分ですが、生活安全や交通安全に関する教材の充実も課題と思われます。「防災の視点を含めた学校安全の推進に資する教材開発の充実が課題となっています」等、教材開発が学校安全全般に関するものであることを明示した方がよいのではないのでしょうか。</p>
				<p>◆社会福祉協議会やボラポトさかたと連携して、地域共生社会(社会包摂)につながる福祉教育・ボランティア学習に取り組むという項目を入れるべき。 (理由) ・福祉教育は、いのちを大切に教育の一環。当事者と交わることで、想像と現実の関連あるいは乖離を学ぶことができる。ここを福祉部門からのアプローチにのみ委ねる(現計画には、そういう方向性も示されていないように思いますが)のではなく、学校(教育委員会)が主体性を持って、ミッションとして取り組むべき。政策3の「公益の心を持ち…」から生じる公益の土壌づくりにつながるし、長い目で見れば、福祉人材の育成にもつながる可能性を秘めている。</p>
				<p>◆教育は小学校からという概念から計画も考えられているが、幼児から(もっといえば0歳児から)人間の根っことなる大事な教育は始まっている。認知能力だけでなく、望ましい非認知能力(心情・情緒・態度)を育むことが人間の根っこの部分を育てる今まさに幼児教育に問われている。道徳教育も大事だが、もっと前の育ちが自己肯定感を育む大事な家庭であることにもっと注視して欲しいと思う。今後は、「教育」という考え方をもっと柔軟かつ裾野を広げた対象にして計画していくべきではないかと思う。この視点を課題に追加していただきたいと思う。</p>
第1章	政策3	施策2	社会の変化に対応できる確かな学力の育成	<p>◆この先の子供たちは副業をしなければいけなかったり、投資などについて正しい知識を持ち、自分の資産を考えながら生きてゆく必要があるかと思う。心、学力、体力はもとより、そうした自分の人生を生き抜くために必要な金銭というものについて海外の様に早い時期から学ぶことは大切なことではないか？ITC機器を活用するグローバルな学習の中に金融学習も含まれるかと思う。</p>
				<p>◆困窮世帯の児童・生徒への学習支援にもふれるべき。 (理由) ・社会の変化には、児童の貧困の拡大(増減あるが、増加傾向)もあるはず。生活保護を受けていた世帯の子どもが大人になって生活保護を受けるという「貧困の連鎖」も現実に存在している。貧困対策として、準要保護で教育委員会の役目終わりとしていいのか。ここも上と同じように、福祉部門からのアプローチのみに委ねるのではなく、教育委員会として、福祉部門と連携して取り組む姿勢がほしい。</p>
第1章	政策3	施策4	特別なニーズに対応した教育の推進	<p>◆「特別なニーズ」と表記せず、「配慮を必要とする子どもたち(児童・生徒)」あるいはこうしたイメージの文言を使用してはいいかがか。 (理由) ・特別支援学校(学級)があるので「特別なニーズ」となるのかも知れないが、障がいがあるなどの理由で配慮を必要とする子ども(大人も同様)自身にすれば、それは「特別なニーズ」ではなく、「当たり前の、普通のニーズ」であるはず。課題の③では「配慮を要する児童生徒」と言っているのだから、同じように表記すればいいのではないか。「特別なニーズ」の表記には極めて違和感がある。</p>
第1章	政策3	施策5	学校・家庭・地域の連携・協働の推進	<p>◆P31④学習指導要領の改訂に伴い、高等学校では「総合的な探求の時間」に変更されている。</p>
				<p>◆(課題①)「地域住民が…また、学校を核とした地域づくりや学校・家庭・地域の連携・協働による地域の活性化について検討する必要があります。」については、「学校」に限らず、こども園・保育所・福祉施設等も考えられる。それらをつなぐコーディネーターの存在も課題課と思う。</p>
第1章	政策3	施策6	学校教育環境の整備推進	<p>◆課題の③の「通学路の…交通上の視点だけでなく、防犯上の視点」を「通学路の…交通安全上の視点だけでなく、防災、防犯上の視点」と補強してはいいかがか。 (理由) ・耐震云々の記述があるのに、課題には「防災」の単語がまったく出て来ない。通学路のブロック塀(?)が地震で倒れて犠牲になった児童もいて、酒田市でも緊急点検をしたはず(担当:建築部門?)。 ・教育委員会の仕事でないから書かなかったのかも知れないが、さりとて防災、耐震化を記述しているP88~89、P91~92でも、通学路についての記述はない(それ以外にあったらごめんなさいです)。通学路の危険はすべて取り去った。あるいは把握済みというなら、話は別だが。</p>
第1章	政策4	施策2	文化芸術活動の推進	<p>◆文化芸術(歴史も含めて)の振興に幅広く携わる学芸員の力量を高めるための研修の強化を位置づけるべき。 (理由) ・土門拳記念館、美術館、資料館に勤務する学芸員は文化芸術の専門職であり、その専門職の力量が本市の文化芸術のレベルに直結すると言っても過言ではない。土門拳記念館、美術館は別人格とは言っても、市との関係は極めて密接。学芸員のさらなる力量向上のための支援が必要と思う。P37の文化資料館(仮称)を整備するならなおさらである。</p>

第1章	政策4	施策5	「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進	<p>❖(課題②)「次代を担う子どもたちに日常的にスポーツを実施する習慣・・・」、ここまでいいですが、次の「・・・多様な体の動きを身に付けさせる機会を増やし継続させる必要があります。」の表現がわかりづらいので、もう少し簡潔にできないか。</p>
第2章	政策1	施策1	中心市街地活性化、新たな産業やビジネスの創出	<p>❖(課題③)ITスキルアップの部分、確かに開催(ITスキルアップ支援)しているのはそうなんですけど、必要なのは女性だけではないと思います。サンロクは全年齢層に対して広くサポートしていくべき場所ですし、そこだけ特筆するのがちょっと引っかけます。</p>
				<p>❖(課題①)中心市街地活性化について深刻にとらえている高校生は多いので、どんな施設などがあつたらいいか、リサーチしてはどうか。当市の場合、いずれの高校も中心部から外れているので、若い人による賑わいをつくり出すためには、中心部に呼び込む仕掛けをつくる必要がある。私の周りには高校生は、大型商業施設を求めている。みんなが来やすく戯れて、フレキシブルな使い方が可能な広場と、おしゃべりのできるカフェ的な店があり、週末はそこで参加型の小さなイベントでもできれば、人は集まるのではないかと考えている。</p>
第2章	政策1	施策2	企業立地の促進、中小企業等の生産性向上	<p>❖(課題①)酒田北港・共同火力周辺の広大な土地が話題となることがある。あの土地は空き地なのか？活用予定は？「事業用地や賃借物件が不足」などという記載を読むと、あの土地に目が向く市民が多いと思うが、どう考えるのか？</p>
				<p>❖海路、道路による販路拡大が挙げられているが、鉄道網(JR貨物)によるコンテナ輸送などは先述の2つのルートとともに大切なネットワークだと思うが、それについてのメンションはしなくてよいのか(酒田は今後のこの3ルートに加え空路を併せた4ルートを駆使して販路拡大を目指すべきだと考えるので)。</p>
第2章	政策2	施策1	酒田港を活用した産業基盤の強化	<p>❖(課題①)酒田共同火力発電所は記載のとおりで、地域をあげて雇用と経営を支えていかなければならない。脱炭素社会に向けて、新エネルギーの活用等、安定した電力供給を担うよう、本市に課せられた役割は大きいと思っている。</p>
第2章	政策2	削除	庄内空港を活用した輸出入拡大	<p>❖課題①に対する答えになってない。この部分。もう1文、例えばですが「連携した長期的な戦略が必要～」と入れた方が良くと思います。</p>
				<p>❖庄内空港が開港した当時、花卉輸出を想定した「フライト農業」が議論がされていたように思う。花卉などの園芸作物の産出額は増加傾向とあるが、なぜこの取組みが進まなかったのか、今後も花卉のフライト農業はないのか、見通しを知りたい。</p>
第2章	政策3	施策1	雇用、地元定着、高等教育機関等の連携	<p>❖若年層の地元定着のための取り組みは、現状の取組みだけでなく、さらに追加していくべき。①サンロクを高校生がコワーキングスペースとしてより活用しやすくなるような情報発信(価格も学生価格)、②高校や大学がサンロクとコラボし「酒田の仕事について知る課外授業の実施など。学生が働くことについて考え、酒田にどんな仕事があるか知る機会を増やすべきと考える。</p>
				<p>❖中身は全然問題ないですが、課題①と課題②の部分について、求職者のニーズは多様化している中で、企業側の理解や環境の問題だと思う。サービスの周知を頑張っても、結局は企業と個人の話になってしまうので、そういった意味でのギャップをなくす、企業側と求職者側の努力を促すとか、双方の歩みよりが必要な感じがします。そのため、でマッチングの部分でもう一つ踏み込んだ言い方が必要な気がします。</p>
				<p>❖(課題①)「早期離職を防止」の文脈の中で「雇用のミスマッチ」という言葉が使われることに、違和感を感じる。企業も学校も行政も、就職希望者への対応には精一杯連携していると思う。就職時のみならず、いかに新規就職者を各企業の核となる人材へ育成し、地域社会に定着させるという点で、さらに議論が深まることを望む。</p>
				<p>❖若年者の声として、関東に比べると賃金が安い。賃貸アパートは高く、車も必要であり負担が大きい。</p>

第2章	政策3	施策2	女性活躍、高齢者および障がい者の就業機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> ❖企業向けの意識啓蒙活動や奨励金制度だけでなく、子育てしやすい環境づくりも合わせて施策に入れるべきである。「就職、出産、休職、復職、子育てしながら働く」という女性の働きかたにおいて、どの状況においても安心して働けることが「働く女性の活動促進」につながると感じている。現在はたらく女性や、これから酒田で就労しようとしている全ての女性が、直接的に、恩恵(メリット)と感じる具体的な施策がないように感じる。
				<ul style="list-style-type: none"> ❖(酒田市)共働き世帯が多いという事、さらに人材・労働力の確保の観点からも女性の働き方の多様性を認識し、非正規雇用から正規雇用への雇用環境の整備改善に努める。 ❖(女性の能力・個性)キャリアアップの為、スキルアップ(資格取得・研修・セミナー等)に積極的にあるべき。 ❖事業主及び男性の意識改革が重要ではないか。 ❖課題①～⑤は同調する。
				<ul style="list-style-type: none"> ❖「日本一女性が働きやすいまち」宣言について、知っている高校生は残念ながらいなかった。市の取り組みを認知させる工夫が必要と思う。
第2章	政策4	削除	農商工観連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ❖農商工連携・マッチングの成功例、JA営農部によらない販路開拓事例、農業法人の経営支援の紹介等、農業者が事業主としての考え方と選択の幅を後押しする対策が必要。 ※資料提供あり(農商工連携の実績資料、農業法人の経営支援に関する資料)
第2章	政策5	施策1	持続可能で収益性の高い森林経営の促進	<ul style="list-style-type: none"> ❖収益性が低いため山林を手放したい人が増加している。森林所有者と素材生産業が委託契約を結び、森林管理し、所有者へ収益を渡すというシステムが3D測量によって実現してきている。所有者は自分の所有する山林の森林整備が行き届き、山林の境界が明確化され、固定資産税以上のお金が入る、というメリットがある。
第2章	政策5	施策2	林業を担う人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ❖県立農林大学校の林業経営学科は志願者が多く、入りたいのに定員オーバーで入れなかったという人を何人か知っている。新規林業就業者数は順調に増加、目標達成とされているが、林業現場目線から見ると目標の数が少なすぎる。林業経営学科の定員数をもっと増やすことはできないか。それに伴い指導者も必要という課題もある。特に今の時期(冬から春にかけて)は、松枯れ対策作業に作業員がとられ、山林から材が出てこないという製材所の困った声を多く聞く。
第2章	政策5	施策3	酒田産木材の安定供給体制づくりと利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ❖県産材を使うと、どのようなメリットがあるのかを知っている人は少ない。何をすることも酒田市民にはこんなメリットがあるという情報力が弱いような気がする。テレビ、ラジオ等で、『酒田市民のお得情報はここで!』と発信し、インターネット上はもとより、実際に足を運んで行き、ここにさえ行けば『一発で酒田市における、あらゆる情報が分かる場所』があれば便利だと思う。窓口から目的の場所までなるべく近い場所にあるシステムがほしい。市役所の中にもあるのかもしれないが、そこにある、という情報が弱い。
第2章	政策5	施策4	森林環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ❖松枯れ作業も森林環境保全には非常に大切だが、現場作業員が少ない中、松枯れの方に作業員がとられると、おのずと木材搬出が遅れる。新規雇用の目標人数をもっと高く設定する理由でもある。 ❖森林保全のために様々行っているボランティアの情報も、活動後の報告で知ることの方が多い。酒田市のホームページも大きくて見やすいが、検索して知りたい情報までなかなかたどり着けない。林業就業率を上げていくためにも、農業・林業・水産業の体験学習を、酒田市の小学生は酒田市独自の指導要領にいれてもらおうと嬉しい。
第3章	政策1	施策1	移住定住対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ❖課題①と課題②の部分について、求職者のニーズは多様化している中で、企業側の理解や環境の問題だと思う。サービスの周知を頑張っても、結局は企業と個人の話になってしまうので、そう言った意味でのギャップをなくす、企業側と求職者側の努力を促すとか、双方の歩みよりが必要な感じがします。そのため、でマッチングの部分でもう一つ踏み込んだ言い方が必要な気がします。
				<ul style="list-style-type: none"> ❖(課題④)コロナによって暮らし方・働き方の価値観の変化が起きており、二拠点生活の需要も高まっています(問い合わせが弊社にもあります)地方に完全に移住するというのも一つですが、酒田で二拠点生活のような暮らし方ができることもPRしたらどうでしょうか。お試し住宅の活用や、PR(ポータルサイトでのインタビュー掲載)など。

第3章	政策2	施策1	観光の推進	<p>◆「ウィズコロナ」「アフターコロナ」とは言われても、新型コロナウイルス感染拡大の最中に観光関連、特に宿泊業界に関する議論はしづらいものを感じている。</p>
				<p>◆(課題②)魅力的な体験コンテンツの造成に加え、それを販売するルートの強化も求められるのではないかと。例えば体験型コンテンツをWebサイト上で予約・販売・決済するシステム(これは現在設立する酒田のDMOや地域の旅行会社がするのか)や、オンライン専門予約サイトへの登録を通し、消費者の目に触れる機会を増やし、選んでもらう仕組みづくりも必要になるのではないかと。</p>
第3章	政策2	施策2	交流およびシティプロモーションの推進	<p>◆県外からの観光客に、名所・旧跡・土産物等が記載されている、市民誰でも市内案内できるような手引書などを作ってはどうか。既存の市のパンフレットは市民向けなのか観光客向けなのか、目的もはっきりしていないように感じる。高校でもホームルーム等で「自分たちの街を知る」といった数時間程度の機会をつくることは可能と思う。</p>
				<p>◆(課題②)訪問してもらうためにこちらが発信するのはもちろんのこと、来てもらった人々に発信してもらう仕組みづくりも必要ではないか。それにより、リピーターや酒田のさらなる認知度拡大に繋がると考える。</p>
第3章	政策3	施策1	クルーズ船等の誘致による賑わい創出	<p>◆山形県の小・中学校の修学旅行先として、酒田港をアピールしてはどうか。酒田港は重要港湾として、国際貿易港として、海外との貨物輸入・輸出、また、クルーズ船が入港している。近年では、エネルギー基地として大きく進化している。一例をあげると、酒田共同火力、サミット酒田パワー(バイオマス)、酒田港メガソーラーパーク(太陽光)、JRE酒田風力(風力)等々、数十社以上であり、まさに発電施設の基地である。山形県内の小・中学校の修学旅行先は、仙台・松島や会津など他県が多いと聞いているが、コロナ禍を経験したことで、県内での学習の機会が増えているようである。庄内の海や酒田港、山居倉庫、庄内平野、特に酒田港でのエネルギー基地を学ぶことは大きな学習になるので、セールスしましょう。</p>
第4章	政策1	施策1	保健福祉の向上	<p>◆成果の①で、「南遊佐地区及び松陵地区において、買い物支援や居場所づくり」とあるのを「南遊佐地区及び松陵地区において、社会福祉協議会等と連携して買い物支援や居場所づくり」に補強してほしい。</p> <p>◆同じく「福祉の担い手育成のため、市内の小学生を対象」とあるのを「福祉の担い手育成のため、社会福祉協議会に委託して、市内の小学生を対象」に補強してほしい。</p> <p>◆課題の①で、「担い手が不足しています。高齢者だけでなく」とあるのを「担い手が不足しています。社会福祉協議会等と連携して、高齢者だけでなく」に補強してほしい。</p> <p>◆また「住民同士が互いに支え合う地域を作っていく」を「住民同士が生活課題解決のために互いに支え合う地域をつくっていく」に補強してほしい。(理由)</p> <p>・上の3つは、実態だから。特に1つ目はむしろ社協が主導してきた。4つ目は、何のために互いに支え合うのかを明確にするべきと考えたから。「作る⇒つくる」は、全体の統一的表情を考えて。</p>
第4章	政策1	施策3	外国出身者の支援	<p>◆支援だけですと幅が狭いように感じます。外国出身者は支援される側とは限らないと思いますので、「交流・支援」ではどうでしょうか。また酒田市の国際交流協会の規約第4条事業に記載している、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際感覚豊かな人材の育成及び活躍の場の創出 ・国際理解に関する啓発活動 <p>といった項目もグローバル化が進む社会においては大切なことですが、課題集のどこにも位置付けられていないようです。施策3をより大きな項目として整理(例えば施策名を「国際交流の推進と外国出身者の支援」と変更)して、入れ込むことはできないでしょうか。</p>
第4章	政策2	施策2	妊娠・出産・子育ての支援	<p>◆医療費を高校卒業まで助成してほしい。高校までは部活動もあり怪我をすることも多く、思わぬ負担になることがある。友達の住む市町村では高校まで助成があると聞いた。</p>
第4章	政策3	施策2	こころの健康づくり	<p>◆成果の最後のところで「自殺死亡率(人口10万人あたり)の進捗状況」とあるが、例えば「自殺死亡率(人口10万人あたり)の低減に向けた進捗状況」と補強したらいいか。</p> <p>(理由)</p> <p>・そのままでは、日本語としておかしい。自殺死亡率を下げる目標達成の進捗状況が遅れているという理由であれば、例示したような表現がいいのではないかと。</p>
第4章	政策3	施策3	地域医療の確保	<p>◆酒田看護専門学校への入学者確保のためにも、学校の建物や設備の改修整備などに言及しなくていいのか。</p> <p>(理由)</p> <p>・実態はよく知らないが、そういう声は聞こえてくる。財源的な裏付けがなくて書けないのなら、まさに行革を総合計画に組み込んだことによる縛りが働く例となるが、実際どうなのか。</p>

第5章	政策1	施策1	協働の地域づくり	<p>◆(課題②)「デジタル変革の視点を取り入れて…」の部分、自治会長及びコミュニティ振興会会長は全員と言っているほど高齢化が進んでいて、デジタル変革で市は何をしてくれるのだろうか。</p> <p>◆(課題②)各地区にある自治会館の修繕は難しいとあるが、現況では市の補助金がないとどうしようもない段階なので、「…難しい状況です。」とは締めてほしくない。</p> <p>◆(課題③)1行目の「…農村地域、県内…」を「…農村地域及び県内…」としてはどうか。2行目「ひとづくり・まち…」を「より活性化を図るため「ひとづくり・まちづくり交付金を地域の実情に合わせた取り組み…」。」としてはどうか。</p>
				<p>◆課題の①で、「…住民生活に身近な分野でコミュニティ振興会や自治会に求められる…」とあるのを「…住民生活に身近な分野でコミュニティ振興会や自治会、学区・地区社会福祉協議会に求められる…」に補強してほしい。</p> <p>◆同じく「行政との一層の連携、行政からの…」とあるのを「行政や社会福祉協議会との一層の連携、行政からの…」に補強してほしい。</p> <p>◆さらに「…基本理念などを、地域と行政とで共有…」とあるのを「…基本理念などを、地域と行政、社会福祉協議会とで共有…」に補強してほしい。</p> <p>(理由)</p> <p>・1つ目は、実際に学区・地区社協がその役目を果たしているから。2つ目と3つ目は、社協が住民とともに地域福祉による地域づくりを推進する団体として社会福祉法に位置づけられ、現にそのように活動しているから。市からは、地域づくりのパートナーとして社協を見てほしいと思っている。</p>
第5章	政策2	施策1	環境保全・廃棄物対策等の推進	<p>◆酒田市の1人当たりのごみ排出量は山形県で1位で、それをキープしている状況を鑑みて、今から「ごみ有料化」を総合計画の後期計画に顔出ししておくべきと思う。</p> <p>◆次代への贈り物として「きれいな空気、きれいな水、きれいな地球」を実現しなければならないと思っている。酒田市においても「SDGs宣言」をしてもいいのではないかな。</p>
				<p>◆課題の①にごみの量に関する表があるが、その説明も含めて、「1日1人当たり家庭系ごみ排出量」の定義を明確にほしい。</p> <p>(理由)</p> <p>・この記述では、リサイクル特に紙類資源のリサイクルを進めれば家庭系ごみが減るように読めるが、以前聞いた内容では、リサイクルするものも含めて家庭系ごみの量に含まれるとのこと。もしそうだとすれば、ミスリードになる。市民に定義を明確に知らせて、そのうえで適切な減量策を提示してほしい。</p>
第5章	政策3	施策1	消防・救急・防災体制の強化	<p>◆課題の①の「…住宅火災による死傷者を出さない…」に関連して、死傷者を伴う住宅火災で、住宅用火災警報器を設置しているかを調べたデータはあるのだろうか。あるとしたら、死傷者の有無と相関はあるのだろうか。あるとすれば、個人情報保護に留意しつつその旨を記載していけば、課題がより鮮明になるのではないかな。</p> <p>◆同じく⑥に「また、被災者が尊厳のある…」とあるが、ここは「被災者」という表記でいいのだろうか。「スフィア基準」では、避難所に来た人は「避難者」ではなく、すべて「被災者」としているのだろうか。</p> <p>(理由)</p> <p>・①については、多分調査はしていると思うが、その結果がどのように活かされているかわからないので。</p> <p>・⑥については、避難所運営のことを述べているのに、「避難者」と表記しないことへの単純な疑問。「スフィア基準」の定義か？そうであれば、それでOK。</p>
第5章	政策3	施策2	防犯・交通安全対策の継続	<p>◆再犯防止対策に言及しなくていいのだろうか。</p> <p>(理由)</p> <p>・現在策定中の第4期地域福祉計画の中に「再犯防止推進計画」を取り込んでいる。地域福祉計画は福祉に関する総合計画であり、市全体の総合計画と関連しているため、念のため提起した次第。(ただし、言及するとした場合、「防犯」の項目で取り扱うべき性質のものかどうかは検討を要する)</p>
第5章	政策5	施策2	日常生活の支援	<p>◆移動支援の例が出ているが、「日常生活の支援」ということであれば、もっと広く「生活課題解決に向けた支援」ととらえ、生活課題解決に向けた地域住民の取り組みを、社会福祉協議会と連携して支援するという項目を位置づけるべき。</p> <p>(理由)</p> <p>・琢成、日向、大沢、田沢は、地域支え合い事業の取り組みや地域計画(ビジョン)策定の延長線上に住民同士の助け合い・支え合い活動が展開されている。これを全市的に展開していくためにも、市や社協が地域づくり・日常生活支援の理念や目標を共有し、連携して支援を続けることを、地域住民に明らかにすべき。</p> <p>・なお、P72～73、82～83の記載内容と重なり合うところがあるので、そこは適宜整理してほしい。</p>
第5章	政策5	施策6	飛島の振興	<p>◆飛島における福祉・介護に関する課題も記述すべき。</p> <p>(理由)</p> <p>・産業関連についての記述のみで、一層高齢化が進む住民の福祉や介護に関する記述がないのは、不自然。忘れていたかと思えない。具合が悪くなったら地方(じかた=いわゆる本土のこと)にくれば済むという話ではないはず。</p>

第6章	政策1	施策2	魅力と賑わいを生み出す中心市街地の再生	<p>◆光の湊で光陵高校生によるマルシェ開催の活動が昨年から開始されており、地域活性化に貢献する取組だと思うが、発信力が弱く、来客数は少ない。電車に乗らなくても、買い物用事がなくても駅前を歩いて来たくするようなしかけづくりが必要と感じる。また、そうしたイベントが周知されていくことでにぎわいが創出できるのではないか。</p> <p>◆酒田市内を歩いて回れるルートマップなどがあると観光客は分かりやすいのではないか。山居倉庫、商店街、日和山公園、海鮮市場、など。それぞれの観光地を徒歩何分で巡れる。などが分かりやすく半日観光プランなど示されればよい。</p>
				<p>◆中町の商店街に立体ではない、大きな駐車場があれば便利である。</p>
第6章	政策2	施策4 施策5	鉄道高速化の促進 在来線の利用促進・利便性向上	<p>◆課題に対する意見 → 鉄道の利用減への対応は、自然災害への対応だけでなく、交流人口増加、観光訪問者数増加に繋がる観光列車の企画運行が不可欠であり、風光明媚な羽越線の付加価値にもなりえる。臨時快速「海里」のように、積極的にJRの路線を利用した観光列車等の運行による、短期流入人口の増加も図ってゆくべきであり、JR東日本とともに考えてゆく必要がある。</p> <p>(案の文章)③ 酒田駅観光案内所、ミライニ先行オープン以降は酒田駅前観光案内所を起点に、酒田市内を歩くJRのウォーキングイベント「駅からハイキング」を、概ねシーズン毎に12回(1回あたり1日～3か月)企画、うち10回を実施しました(台風、コロナによる中止あり)。在来線を利用した鉄道ファンを中心に誘客につながっています。</p> <p>→上記につきまして具体的な数字があれば動員実績として、掲載してもよいかと思う。</p> <p>補足:鉄道輸送客数については、様々な事業や目標とともに、コロナで水を差された状況なので、通常のサンプルを採るのに(分析するのに)は決して適した例とはいえず、例えば戦争中のイレギュラーな状況の統計のようなもので、日本も、世界のも戦時中の統計は入れて分析、入れないで分析のデュエルで測っていると思います。</p>
第6章	政策2	施策4	鉄道高速化の促進	<p>◆高速鉄道の整備の前に既存の輝堂の活用を考えるべきである。現状利用の少ない羽越線が新幹線となって利用が増えるとは考えづらい。コロナ禍の下、人が移動しづらければ物を移動させるなど積極的な有効活用を考えてほしい。</p>
第6章	政策2	施策5	在来線の利用促進・利便性向上	<p>◆奥羽線、陸羽西線、羽越線の連絡が悪い。利便性が悪いと鉄道離れは加速する。</p>
第7章	—	—	<特定の施策に紐づかない意見>	<p>◆総合計画の進捗状況をチェックする機関とその機能、開催回数などについて、記述すべきではないか。</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの行財政改革推進委員会では、進捗状況についてチェックする場が、年2回(他に「勉強会」あった)あった。今回は、総合計画に組み込まれたので、その委員会自体がなくなった。 ・では、市民の立場で本総合計画の進捗状況をチェックする場はどうするのか。以前の行革推進委員会において、副市長が必要性を述べた経緯がある。そのことも踏まえて、考えてほしい。 <p>(注)第7章自体には特に意見はないが、総合計画の進捗状況を市民がチェックする場を設けるとしたらどの箇所になるのか、いただいている資料ではわからないので、上記の行革のこれまでの経緯から、7章のところに記載した次第。</p>
第7章	政策1	施策1	持続可能な財政基盤づくり	<p>◆(課題②)公共施設の廃止・解体については、大変デリケートなものであり、その廃止・解体についてのルールを作成してもらいたい。</p> <p>◆(課題②・③)表に表題(タイトル)をつけてもらいたい。</p>
第7章	政策1	施策2	効率的な行財政運営の推進	<p>◆(成果⑤)文末の述語について、です・ます調に統一してはどうか。</p>
第7章	政策1	施策3	市民への積極的な情報発信	<p>◆(課題①)市民が一番ほしい情報は何といっても酒田市長の言葉だと思う。以前、「広報さかた」に市長の独り言的なコラムがあったが、毎月1回でいいので、うれしかったこと、困ったこと、お願い事だとか、酒田市の現状だとか、様々なことを市民は知りたい。ホームページでもいい。そのために市長公室があるのだと市民は思っている。</p>